

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年2月29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100787		
法人名	医療法人社団 萩野医院		
事業所名	グループホームやまだ		
所在地	富山県富山市山田沼又88		
自己評価作成日	平成28年1月26日	評価結果市町村受理日	平成28年3月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成28年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は山間地にあり、とても風光明媚な環境の良い所です。「ゆっくり 楽しく 和やかに」の理念を基に、隣接する山田デイサービスセンター福楽と連携し、利用者様が穏やかな日常を送ることができるような介護を行っています。医療面では萩野医院と連携し、他院受診の折も萩野先生より紹介していただき医療連携を行っています。今後更に研修や行事を充実させ、より質の高い介護を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

四季が満喫できる自然豊かな山間部に位置している。デイサービスが併設されており、双方の行き来や運動会などの行事が合同で行われている。また、萩野医院を核として医療と介護及び法人内の介護事業所間の相互連携が図られている。重度化や看取りについても家族の理解も得てしっかりとした対応が図られている。職員は仕事にやりがいを感じ、生きいきとケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームやまだ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度も理念について学び共有を図っています。毎日、理念の唱和を行い、理念の実践につなげています。	法人内8事業所の共有の理念に基づき、カンファレンスでの勉強会や毎朝の申し送り時に唱和するなど、理念の共有を図り実践に向けた取り組みが行われている。	理念と実践の相関について、職員間での、更なる掘り下げた話し合いを行い、全職員が常に理念を意識したケアの実践に取り組まれることが期待される。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店で買い物をしたり、地域のりんご園に出かけています。春祭りでは地元職員の仲介があり、地域の方とお祭りを楽しむことができました。避難訓練でも地域の消防署の協力を得て実施しています。	地域のお祭りやりんご園に出向いている。また、近くの保育所、小学校の子どもたちが来訪し歌や遊戯で楽しませてくれている。	地域行事並びに保育所、小学校の運動会、学芸会などにも参加して更なる、地域交流を深められることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に当事業所の紹介をしています。隣接するデイサービス福来の家族交流会では家族の方の見学がありました。また、今年も地域の小学生の総合学習の受け入れを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修や行事、第三者評価結果などの報告をしています。そこで、貴重なご意見を頂き運営に反映しています。	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、会議では事業所の近況や外部評価についても報告をし、意見をもらいサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員として行政センター職員を委嘱しています。2か月に1回様々な意見をもらっています。法人本部では日頃から市と連携し、協力関係が築けています。今年度は研修の講師を市の職員に依頼し、実現できています。	行政センター職員に運営推進会議のメンバーになってもらっているほか、日頃から運営に関するいろいろな相談をしてアドバイスを受けている。また、市の主催する研修会にも参加し連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も身体拘束に関する研修を受けました。当事業所は環境はとも良いのですが、近隣には住宅が全くなく人もいないため、防犯面では注意を要します。玄関は施錠をしていますが、入居者の外出希望に十分配慮しながらも、防犯面でも注意をしています。	身体拘束の研修を受けて、事業所内での勉強会も行うなど、内容と弊害については全職員が理解している。なお、事業所の位置が山間地で近隣住宅もないため、防犯上の観点からやむを得ず玄関には施錠しているが、「外に出たい」と希望する利用者がいれば、職員が同行し、利用者の意向に沿った対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年も研修会を行い学んでいます。そして、虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に権利擁護に関する制度の説明を受けています。現在、その制度を利用されている入居者はいませんが、今後、必要とする方がおられた時には支援をしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、家族に契約内容を十分に説明し、納得のうえ契約を締結しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族とは、良好な関係が築けるよう接しており、意見や要望を聴くようにしています。また、家族アンケートや家族交流会での意見を運営に反映しています。	利用者からは日々の会話の中で、家族からは満足度アンケートや家族交流会などで意見・要望を聞いている。出されたものは申し送りノートに記載し、カンファレンスなどで話し合い運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を聞くようにしています。年間の研修や行事の計画でも意見を聞き運営に反映しています。	職員からの意見・提案については日常的に聞いている。また、その内容については申し送りノートに記載しカンファレンスなどで話し合っているほか、重要なものは本部にも報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況を把握し、代表者に報告しています。代表者は職員一人ひとりが働きやすく、やりがいを持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では職員一人ひとりの介護の力量を把握し、研修受講を勧めています。介護の質を高めるために、年間の研修計画を立て実施しています。また、介護福祉士資格取得の勉強会も実施しており、資格取得支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は研修会に参加することを勧めています。そして、参加した職員から研修の学びを聞く機会を設け、介護の質向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から本人と面談し、入居前の情報を基に、十分に観察し声を掛け寄り添う介護を行っています。そして不安や要望を把握し、安心できるような支え、信頼関係が築けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談し、入居に至るまでの経緯などを十分に聴いています。家族が面会に来られた際には近況を話し、これまでの暮らしの情報も得たり、家族と本人との関係を考慮しながら信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談した時の情報と今までの暮らしの情報を基に、介護支援専門員は初期の介護計画を作成し開示しています。その後もチームで十分に観察し、話し合いながら生活を支えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の発言などから、したい事や出来る事を知り、家事活動などをしてもらっています。職員と入居者はお礼の言葉を掛け合い、共に過ごす者としての関係を深めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人は家族を一番の頼りとしておられることを話し、入居後も出来る限り面会に来て頂いています。そして、日々の生活状況をお伝えし、介護と一緒に考えて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	家族や姉妹、親戚などの面会を自由にしてもらっています。自宅への思い入れがあり、年末年始など外出や外泊をする方がいます。隣接するデイサービス福来に馴染みの人がおられ、交流の支援も行っています。	入居時や利用者との日常の会話の中から馴染みの関係を聞き出し、フェースシートに記載している。希望があれば家族の協力も得て、馴染みの店での買い物や美容院への同行支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、居間の席を決め、関わりを見守っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が退居する際、この後も相談に応じることを伝えています。そのため、記録は保管しています。死亡により退居となった場合も、職員は通夜や葬儀に参列し、家族支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの今までの暮らしを知り、日々の会話や行動を観察し、思いや意向を把握しています。	日々の暮らしの中で、利用者が発する言葉や行動の頻度や時間帯、また、その際の周りの状況などを記録に残し、本人の思いや意向を押し量るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしは、本人や家族、以前の介護支援専門員より情報を得ています。職員はそれらの情報の把握に努め介護をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は申し送りを聞いたり、入居者日誌や申し送りノートに記録し、それらを読み、暮らしの把握に努め支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、介護する中で課題について、本人や家族、職員で話し合い、アイデアや意見を集約し介護計画に繋げています。カンファレンスでも意見交換を行っています。期間を設定しモニタリングを行い、介護計画を更新作成しています。	毎日の申し送りや、毎月のカンファレンス時などに、利用者の現状を踏まえたモニタリングを行っている。また、本人や家族から要望などを聞き、利用者がより良く暮らせるような介護計画づくりに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は毎日、介護計画に沿ったケアを実践し、結果や気づきを記録しています。申し送りや申し送りノートを活用し、情報の共有を図っています。それらが、介護計画の見直しに活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接するデイサービスに馴染みの方がおられ、交流ができ楽しめています。時に合同で行事を行うこともしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店で買い物を楽しむ方がおられます。また、地域の理容店より訪問が毎月あり、整髪の手助けが受けられています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医について説明をしています。全員の方が母体施設の萩野医院の往診体制や健康管理について希望されます。管理者は看護師であり、萩野医院との連携がスムーズです。また、専門的な治療が必要な場合は、協力病院を受診できるよう紹介をしています。	医療法人として医療と介護の密接な連携のもと、萩野医院の往診体制をとり、利用者や家族の安心につなげている。また、専門外来の受診に際しては、病歴や症状などを紹介状に記すなど、適切に受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎日、体温や血圧を測定し、食事や排泄、入浴時の身体チェックなどの気づきを看護師に報告しています。看護師は母体施設の萩野医院と連携し、適切な治療と看護を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、早々に地域医療連携室と連絡を取り、安心して入院治療が受けられるよう情報提供をしています。また、退院に向けても、情報交換や相談を行い、なるべく早期に退院できるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医が看取りの状態と診断した際、主治医から家族に病状の説明を行い同意を得て、看取り介護を実施しています。本人の状態や思いに合わせ、家族の協力を得ながら、医師や看護師を交えたチームで出来るケアや治療を行い、苦痛の緩和や精神的な支援を図り、最期まで本人らしい暮らしが出来るよう支えています。	本人や家族から看取りの希望があれば、医師の指示を踏まえて、安心して暮らせる支援方法を職員間で話し合っている。配偶者と手を取り合い、また、孫やひ孫のお見舞いを受けながら、穏やかに過ごし、最期の時を迎えるなど、充実した看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所にはAEDが設置されており、職員全員が使えるよう取扱い講習を毎年、行っています。事故発生時には、職員間の緊急連絡網を素早く回し対応をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は地域の消防署の協力を得て、毎年、春と秋の年2回実施しています。事業所は山間地にあり、近隣住宅がないことから、事業所から家が近い職員に、外からの避難誘導の協力員として役割を与え実施しています。	火災を想定しての避難訓練を年2回実施し、また、非常時持ち出し用のリュックを準備するなど、災害対策を講じている。事業所近隣には民家がないため、災害時には、地元職員が駆けつける体制をとっている。	近隣に民家がないため、地域との協力体制をつくっていないが、今後は、自治会などに働きかけ、地域の人達の協力を得る体制づくりが期待される。



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するケアは理念にも掲げており、大切にしています。一人ひとりが不快な思いにならないよう言葉かけや態度に注意をしています。今年では法令遵守とプライバシー保護の勉強会を行っています。	利用者の誇りやプライバシーを大切にした支援を実践するため、職員は、利用者から信頼を得ることを大切に、優しく丁寧な言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の様々な生活の場面で、本人の思いや希望を聞いて行うようにしています。思いを伝えにくい方には、物を見てもらったり、ジェスチャーも交え、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活リズムを知り、その方に合わせた支援をしています。例えば、起床時間や就寝時間は希望に沿うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師による整髪では、本人の好みを聞いて支えています。家族の介助で美容院まで行かれる方もいます。また、お化粧を楽しむ行事を計画し実施しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が、一緒に調理をしたり後片付けをし、やりがいや楽しさを持って頂けるよう支えています。	味噌汁の具材を切ってもらったり、茶碗拭きなど、準備や片付けを一緒に行いながら、食事を楽しんでいる。また、海老天ぶらの年越しそば、鏡開きのお汁粉など、家庭的な行事の献立も工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人では安全で安心した食事を提供するために栄養科があります。嚥下障害の方にはトロミ剤を使用するなど誤飲にも注意をしています。また、水分も必要量を摂取できるよう工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年は歯科医より口腔機能の研修を受け、口腔ケアの必要性を更に認識しケアを実施しています。食事前には嚥下体操をしたり、食後の口腔ケアでは磨き残しの介助も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで気持ちよく排泄できるよう、トイレの場所を教えたり、見守りし誘導の声掛けや介助をしています。	トイレの場所がよくわからない利用者には、廊下を歩く様子などから、さりげなく声をかけるなど、利用者の自尊心を大切にしながら、トイレでの排泄や排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は牛乳を提供し、日中は体を動かし、水分を摂取できるよう努めています。また水分摂取が困難な方には、使いやすいカップを準備し、好みの飲み物や温度にも工夫をして、少しでも多く摂れるような介護をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めています、本人の体調や希望に合わせて、日を変更し対応しています。入浴を拒む方には、誘導の仕方やタイミングを工夫し支援しています。	利用者一人ひとりの思いに沿って、タイミングを見計らって声をかけたり、ゆず湯の際には、リラックスしながら、思い出話をするなど、入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション活動を行い、夜はゆっくり眠れるよう、室温にも気を配り介護をしています。日中も必要時、お昼寝の介助をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬剤情報があり、職員がいつでも見れる体制になっています。毎食毎の薬のトレーがあり、誤薬がないよう、声を掛けあい介助をしています。薬の変更があった際、症状の変化にも気を配り観察をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦をしてきた方は、家事作業をし、畑作業をしてきた方には、野菜作りをして頂くなど、できる力を発揮され、張り合いや喜びを感じてもらい、気分よく暮らせるよう支えています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は広い緑豊かな庭を散歩しています。毎年、行事計画を立て、あじさい見学やコスモス見学に出かけ、地域のりんご園にも行き、りんご狩りを楽しんでいます。時に近隣をドライブすることもあります。また、家族の支援により、外食や買い物、温泉に行く姿がみられています。	リビングから中庭に出て、心地良い光や風を感じながら、お茶やランチ、時にはゲートボールを楽しんだり、隣接するパークゴルフ場まで散歩するなど、日常的に戸外に出る機会をつくっている。また、山田特産のりんご狩りや夢の平のコスモスウォッチングなど、楽しみごとの外出も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい入居者は、家族の了解のもと、自分で持っています。そして、好きな食べ物を購入し満足感が得られています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に暮らしておられるご家族と電話での取り次ぎや、ご家族からの手紙の代読を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は窓が大きく外の景色がよく見え四季を感じて頂けます。居間からは芝が植えられた中庭にすぐに出られ、ランチやカフェを楽しめます。季節の飾りを一緒に作成し掲示し、楽しむこともしています。また、環境整備をし室温にも気を配り、居心地よく暮らせるようにしています。	冬場は、蓄熱暖房やエアコンをこまめに調節し、快適な室温を保つなど、過ごしやすい環境づくりに努めている。また、皆で、折り紙のおひな様を作りながら、手を休めて、大きな窓から外の雪景色を眺め、「水墨画みたいだね」と語り合うなど、季節感を取り入れながら、和やかな雰囲気共用空間をつくっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の席や三人掛けソファ、長椅子を利用し、入居者同士が談話を楽しんだり、独りになれたりと自由にしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を持参して頂くよう勧めています。また、塗り絵などの作品や家族との写真を飾るなど、安心して暮らせる環境へと配慮しています。	使い慣れた整理ダンスに衣類をしまったり、孫の写真を眺めてにっこりするなど利用者が穏やかに過ごせるような居室をつくっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーであり、手すりが各場所に設置されています。また、各居室には電動ベッドが設置され、安全で快適に過ごしやすい環境となっています。			

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームやまだ

作成日 平成28年 3月11日

### 【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害訓練は事業所の近隣に民家がないことから、地域の協力体制を作っていない状況です。	災害訓練は地域の人に事業所を理解してもらい、協力を得て実施します。	災害訓練について、隣接のデイサービスと共に自治会の方に働きかけ、一緒に訓練を行います。	8か月
2	2	地域との交流は行っているが、更に深める必要があります。	事業所を更に理解して頂き、互いの交流が深まります。	現在行っている地域との交流を継続すると共に、地域の運動会などにも参加し、更なる地域交流を深めます。	8か月
3	1	職員は理念を軸に日々、介護をしているが、入居者が更に安心して過ごせる為には介護の質を高める必要があります。	職員の支えにより、入居者が更に安心して穏やかに過ごせるようになります。	法人の理念を基に事業所の目標として、「入居者を人生の先輩として敬い、穏やかに優しい場を作る」として、毎月のカンファレンスにおいて話し合います。	10か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

グループホームやまだ